学校設定科目『Global English』をベースにグローバル社会で自分の考えを表現・発信できる生徒の育成岡山県立笠岡高等学校 『Global English』実施委員会

活動の目的

- ○英語のアウトプット能力の育成に特化した学校設定科目 『Global English』を新設、実施・研究し、生徒のグロー バル社会で自分の考えを表現・発信できる英語のコミュ ニケーション能力を育成する。
- ○授業内外で「英語を使う機会」を提供し、異文化交流や 多種多様な人々との交流を通じて「世界につながる視野」 を醸成するためのプログラムを研究する。

活動の内容及び経過

●学校設定科目『Global English』

自己紹介に始まり、身近なトピックを題材に他者と意見を交換し合うインタラクティブな活動へと授業内容を発展させていった。

●オンライン英会話

1年生は「日常英会話レッスン」、2年生は「4技能検定対策」をそれぞれ受講した。また、セブ島短期語学研修参加者は、事前研修としても受講した。

●セブ島短期語学研修と現地校生徒との交流

7月29日~8月11日の14日間、希望者14名がフィリピン・セブ島の語学学校(PILA education)での語学研修と現地高校(Apas Integrated Senior High School)での授業体験と高校生との交流を行った。

●『グローバル講演会』

10月11日に本校卒業生で青年海外協力隊員としてセネガル共和国でボランティア活動をされた田賀朋子さんをお招きし「わくわくから始まる国際協力」をテーマに講演会を行った。

●国際交流ボランティア

10月20日に13名の生徒が、マレーシア・ケランタン州コタバル市からの訪問団45名に対しカブトガニの歴史や生態、恐竜との関係を英語で説明するボランティアに参加した。

活動の成果・効果

●学校設定科目『Global English』

授業評価アンケートの結果77%の生徒が興味・関心を持ち、意欲的に授業に取り組めていると回答した。生徒は、積極的に授業に臨み、英語で自らの意見を発信しようとしていた。授業を重ねるごとに英語の質問に対して反射的に答える習慣や簡潔に答える力を身につけることができた。

●オンライン英会話

限られた時間の中で生きた英語に触れることができ、マンツーマンという状況で自分の意思を懸命に伝えようとする姿勢が養われるので、生徒にとってよい経験となった。事



後アンケートでは、約60%の生徒がオンライン英会話は英語学習に効果的であり、継続して受講することに意欲的であった。

●セブ島短期語学研修と現地校生徒との交流

参加者の86%の生徒が、現地高校での授業体験や高校生との交流に対し「良かった」と回答した。また93%の生徒がプログラムを通じて英語の学習意欲が増したと回答した。 2週間英語に触れ続けたことで英語学習に対する意識が大きく変わった。

『グローバル講演会』

メディアから得られる情報ではなく、講師の先生が実際に現地で体験し得た内容に生徒は真剣に耳を傾けていた。 生徒からは「難しそうと思っていた国際協力について理解が深まった」「先生の行動力を見習いたい」といった感想が 寄せられていた。

●国際交流ボランティア

日常で英語を使って話す機会がない生徒にとって、英語をアウトプットする機会を得たことは大きな収穫であった。 また、ホスピタリティについても意識することができ、授業では得られない経験を積むことができた。

今後の課題と問題点

地元地域をベースとした生徒による国際交流活動、オンラインを用いた主体的な交流を推進するプログラムを研究し、継続的な交流プログラムとする必要がある。また、教科横断的に学べる仕組みを作り「世界につながる視野」を 醸成することが必要である。

●代表者:鳥越信行 ●所在地:笠岡市笠岡

●TEL: 0865-62-5128 ●E-MAIL: kasaoka@pref.okayama.jp

• URL: http://www.kasaoka.okayama-c.ed.jp/

●設立年:2018年 ●メンバー数:8名